

地域と人がつながり 支え合うまち 湯川



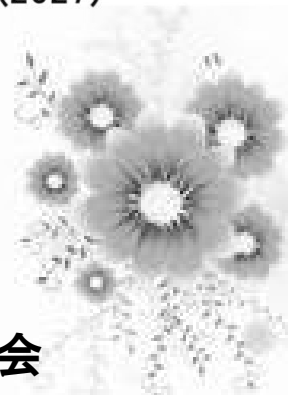
住民発！ 湯川校区 小地域福祉活動第一次計画

令和5年(2023)～令和9年(2027)



ふれあいネットワーク

湯川校区社会福祉協議会



ごあいさつ

小倉南区湯川校区社会福祉協議会

会長 村内 実



湯川校区は、足立山(598m)の南麓に位置し、桜の名所「安部山公園」や「和氣清麻呂公」伝説で知られています。校区にはJR日豊本線安部山公園駅があり、北九州市の玄関口であるJR小倉駅から15分のアクセスです。

同駅には一日に約4,700人が利用しています。また、国道10号線と接続する九州自動車道「小倉東IC」や北九州都市高速道路「横代インター」に隣接し交通の要衝となっている自然豊かな閑静な町です。

令和4年9月1日時点の人口は約12,000人 5,960世帯で高齢化率32%と年々増加の一途を辿っています。

湯川小学校が昭和50年4月1日開校宣言後の同年6月20日に湯川校区社会福祉協議会が設立され間もなく半世紀(48年)になります。

その間、平成6年10月に具体的な福祉活動を展開するために「ふれあいネットワーク(FNW)活動」を福祉事業活動の柱として「みんなが安心して安全に暮らせる支え合いのまちづくり」を推進してきました。

近年、少子高齢化や核家族化など社会環境や世帯構成の変化、経済格差の広がり、生活困窮者の増加、孤独や孤立、ひきこもりによるフレイル(虚弱)の進行、食生活の偏りによる生活習慣病や認知症、身体・精神障害疾病など多岐に亘る様々な問題が顕在化してきました。

今般、北九州市社会福祉協議会「ふれあいネットワーク活動推進事業要綱」の改定に伴い、令和4年度「小地域福祉活動計画づくり(第一次計画)」を28年ぶりに着手しました。「地域でできることは地域で解決！」をモットーに地域共生社会の実現を地域の方たちとご一緒に第一次5カ年計画を重点事業として推進してまいります。おわりに、この計画の策定にご尽力いただきました策定委員の皆様ならびに意見をいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます、ご挨拶といたします。

令和5年2月吉日

地域と人がつながり 支え合う福祉のまち 湯川

住民発！湯川校区 小地域福祉活動 第一次計画

令和5年(2023年)～令和9年(2027年)

目 次

ごあいさつ

第1章 計画策定にあたって4
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 湯川校区の現状と取り組み5
1 地域社会の特徴	
(1)湯川校区のプロフィール(基礎カルテ)	
(2)湯川校区の取り組み	
第3章 第一次計画の体系6～9
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目(体系図)	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進10～11
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第二次計画の策定	
4 小地域福祉活動第一次計画策定会議名簿	
参考資料12～25
参考資料1 策定会議および役員会での協議事項	
参考資料2 策定会議予定表	
参考資料3 策定者マトリックス表	
参考資料4 湯川校区町丁別人口動向	
参考資料5 グループワーキング	
参考資料6 マイルストーン表	
参考資料7 湯川校区人口および高齢化の推移	
参考資料8 高齢化が進んでいる地域	
参考資料9 湯川校区の絆(きずな)プラン	
参考資料10 校区の名所・旧跡、活動内容	

第1章 計画策定にあたって

1 計画の特性

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、湯川校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための行動計画です。

(2) 小地域の生活を支えあう計画

この計画は、湯川校区に住む人たちの「安全・安心な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市および北九州市社会福祉協議会 小倉南区事務所と協働する計画

この計画は、北九州市および北九州市社会福祉協議会、小倉南区事務所の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 湯川校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、湯川校区社会福祉協議会が福祉課題について提案を行うことで、福祉において中核的な役割を担う組織としての意義づけを明らかにするものです。

2 計画の期間

第一次計画は、2023年から2027年までの5カ年とします。

但し、計画期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば見直しを行います。

3 計画の策定経過

新型コロナ禍、制限された環境条件の中、「小地域福祉活動計画づくり」を立ち上げ推進していくために関係機関や団体から15名を選出して策定会議をキックオフしました。活動期限を一年と定め、マイルストーンを設定して毎月の策定会議を2グループに分けて幅広い意見の交換や地域の実情把握などグループワークに努め、基本計画や実施項目(体系図)などに纏め、当初予定より早く第一次計画を策定することができました。



第2章 湯川校区の現状と取り組み

1 地域社会の動向

(1) 湯川校区のプロフィール(基礎カルテ)

人 口	12,000人	小 学 校	湯川小学校
世 帯 数	5,960世帯	中 学 校	湯川中学校
高 齢 化 率	32%	活 動 拠 点	湯川市民センター
ひとり暮らし高齢者	430人	民生委員児童委員	14人
福祉協力員	84人	主任児童員	2人
ニーズ対応員	7人	老人クラブ	11クラブ
ブロック数	7ブロック	水町・中条・水神・二南・二北・竹馬園・安部山	
自治町内会	15町内	地域包括支援センター	小倉南2
資源インフラ (ふれあいネットワーク 活動支援事業所)	病院・クリニック	北九州湯川病院・北九州安部山公園病院	
	介護・老健施設	北九州ヘルスケアホーム湯川・あけぼの苑	
	調剤薬局	九州メディカル	
	小倉南区役所	いのちをつなぐネットワーク担当 地域保健第二係 包括支援センター小倉南2	
	社会福祉協議会	小倉南区事務所	

(2) 湯川校区の取り組み

1) ふれあいネットワーク(FNW)事業活動の推進体制

平成6年10月事業制度発足時から28年間、先達の功勞により地場病院や介護老健施設と連携したFNW事業活動を専門性の観点からセミナーや健康運動などに講師派遣頂き、連絡調整会議参画など一躍を担っています。

2) 湯川小学校児童との体験交流を継続

昔あそび(1年生)、火おこし(3年生)、障害者車いす・点字体験(4年生)を通して地域住民との交流の場を継続して推進。特に、昔あそび、火おこしは児童が楽しみにしている行事です。

3) 福祉情報サービスなどの広報・情宣活動

情報紙「ふれあい」を毎月1200枚高齢者宅へ見守りを兼ねて福祉協力員が訪問宅配、今月で第276号を発行。病院・介護老健施設・調剤薬局・いのちをつなぐネットワーク・地域保険第二係保健師・社協小倉南事務所地域支援コーディネーター・包括支援センター小倉南2保健師・民児協など校区団体から様々な福祉情報を寄稿頂いています。

第3章 第一次計画の体系

1 基本理念

地域と人がつながり支え合うまち湯川

湯川校区では、子どもから高齢者まで誰もが住み慣れたところで安心して安全に暮らしていけるまちにしたいと願っています。

そこで地域の特性を踏まえ、住民の皆さんの理解と参画を得ながら地域団体や関係機関との連携のもと、「人と地域をつなぐ福祉のまちづくり」を基本理念として、小地域福祉活動第一次計画を推進していきます。

2 基本目標

基本目標 1

安全安心、清潔で美しい地域づくりに努め誰もが住みたいと思うまちづくり

生活道路などの危険個所の把握・周知、見守りや生活環境パトロールの実施、町内ごとの自主防災の推進、校区清掃活動の継続など地域の活動力を高めていきます。

基本目標 2

生活上の困りごと相談・支援等暮らしを支え合う、助け合うまちづくり

困りごと相談・支援態勢の構築やボランティア要員の確保、社会奉仕活動の場をつくり地域のことは地域で解決する自助共助のまちづくり活動を推進します。

基本目標 3

高齢者やひとり暮らしの人とのふれあいの輪を広げ、思いやりのある優しいまちづくり

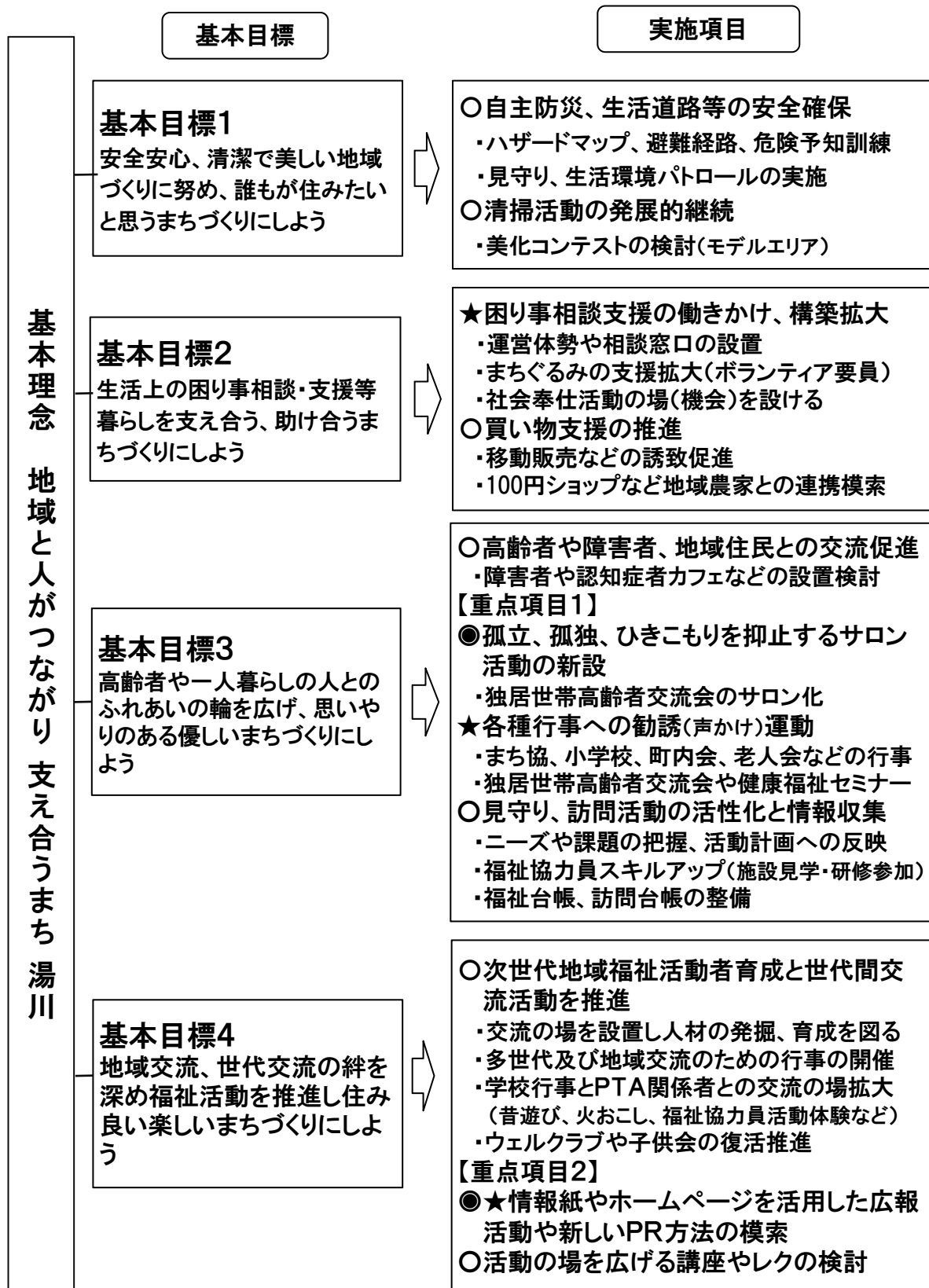
高齢者や障がい者との交流活動を促進して孤立・孤独・ひきこもりを抑止する交流の場を設置します。併せて各団体行事への声掛けや勧誘を推進して、いつまでも校区に住み続けたいまちづくりを目指します。

基本目標 4

地域交流、世代交流の絆を深め福祉活動を推進し住みよい楽しいまちづくり

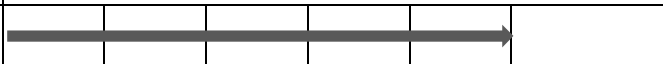
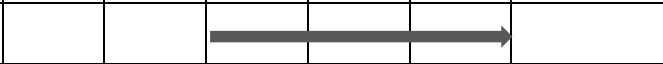
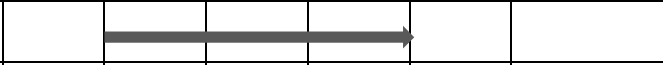
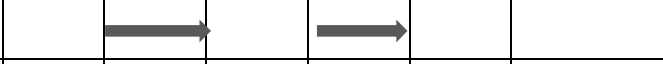

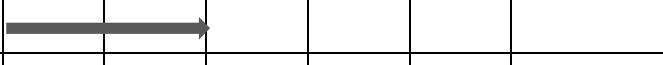
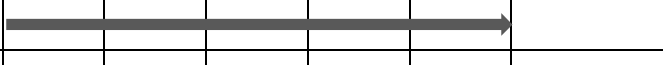
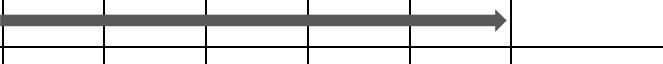


FNW事業活動交流を通して次世代地域福祉活動者の発掘・育成に努め、多世代交流の拡大や活動の場を広げる講座やレクリエーションの導入、広報・情宣活動などを推進して子どもの声が弾み高齢者の顔が見えるまちづくりを推進します。

3 実施項目(体系図)



基本理念
地域と人がつながり
支え合うまち
湯川

4 重点実施項目

基本目標3 【重点項目1】	孤立・孤独・ひきこもりを抑止するサロン活動の新設					
1 課題背景・地域の現状						
1. 高齢者は約3,865人で高齢化率＝約32%(75歳以上約18%)で増加中 2. コロナ禍も重なって地域行事への参加者が減少しフレイルなどが懸念される 3. 地域にサロン交流の場(機会)がなくなって近隣間の疎遠化が進行している 4. 支える側も支えられる側も高齢化が進み能動的な交流活動が後退している						
2 活動の方針・目標						
1. 圏域または校区にふれあえる交流の場(機会)を設置する 2. 広報や声掛けによる周知と地域にふれあい活動の輪を広げる 3. 孤立・孤独・ひきこもりによるフレイルや閉鎖的日常生活意識の転換を促す 4. 検診受診勧奨や健康づくり意識の醸成により健康寿命の延伸を図る 5. サロン活動を通して社会貢献や生きがいづくりなど自己啓醸成の場にする						
3 段階的な取り組みの年次計画						
取り組み内容	R5	R6	R7	R8	R9	備考
1. 新設サロンの開設						
1)圏域サロン自主運営支援						
・社会貢献活動、生きがいづくり						
・健康づくり、健康寿命の延伸						
・傾聴講座、社会見学など啓発						
・健診受診の勧奨						
2)校区独居世帯サロンの開設						
・独居世帯交流会からのサロン化						
・病院、施設専門者の健康測定						
・軽運動やストレッチの実践						
・レクリエーションやゲームの導入						
・健康講座の開設						

基本目標4 【重点項目2】	情報紙やホームページを活用した広報活動や新しいPR方法の模索					
1 課題背景・地域の現状						
1. 事業活動状況や福祉サービス情報への浸透、理解が不十分 2. コロナ禍の影響により地域行事が自粛し参加意欲の低下が懸念される 3. 団塊世代の後期高齢者化に伴い活動を支える側の高齢化が進行中 4. 電子媒体普及に対応した広報活動への取り組みが遅れている						
2 活動の方針・目標						
1. 情報紙やホームページ(HP)を活用した広報活動 2. YouTube、Facebook、TikTokなどによる新しいPR方法の模索 3. 後継者育成、人材発掘、活動継続のためのマニュアルづくり 4. 広報や情宣活動の発信力強化 5. SNSなどの研修、聴講参加						
3 段階的な取り組みの年次計画						
取り組み内容	R5	R6	R7	R8	R9	備考
1. 時代に即応した広報活動						
1)電子媒体情報提供体制構築	→					
・校区社協、FNW活動のHP化	→					
・YouTubeやFBへの展開検討	→					
・SNSなどの研修や聴講開設	→					
・横断的機能体制と情報管理体制の一元化	→					
2. 既存広報活動の再整備						
・情報紙配布世帯、発行頻度の見直しと掲載内容の充実化	→					
・新規印刷業者の調査・検討	→					
3. 後継者育成と人材発掘						
・活動継続のためのマニュアル化	→					

第4章 計画の推進

1 計画の承認と周知

- (1)湯川校区の合同総会(まちづくり協議会・社会福祉協議会)を通じて計画の承認と周知を行います。
- (2)計画の実施項目を進めていくため、関係機関・団体への周知・協力依頼を行います。
- (3)計画書概要版の配布や情報紙「ふれあい」、ホームページの製作・掲載等を通じ、地域住民への周知を行います。また、YouTubeやFaceBook等ICTを活用した広報活動を検討していきます。

2 計画を推進するための体制

- (1)小地域福祉活動第一次計画推進会議を設置して計画の進行管理を行います。

- ①関係機関・団体との連携
- ②計画内容の具体的な実施方法
- ③進行管理の実施

などについて推進会議では協議を進めていきます。

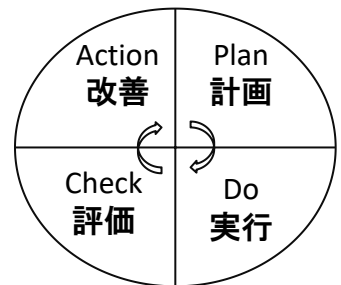
- (2)計画の進行管理(推進会議の開催)

推進会議を適宜開催し、次の点について確認します。

- ①事業推進の計画・実行
- ②事業推進の進捗状況の確認

- (3)計画の評価

計画の中間年では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。



3 第二次計画の策定

第一次計画の進捗状況を踏まえて、第二次計画の策定期間に新たに策定会議を設置して、事業活動計画案の協議を進めていきます。

4 小地域福祉活動第一次計画策定者名簿

	氏名	所属団体	役職	備考
1	村内 実	自治連合会 まちづくり協議会 社会福祉協議会	会長	校区事業統括
2	山岡 信幸	FNW推進協議会 社会福祉協議会	会長 副会長	福祉協力員・民生児童委員
3	松田 眞壽美	FNW推進協議会	事務局長 ブロック長	福祉協力員・民生児童委員
4	永留 英子	FNW推進協議会	会計	福祉協力員・民生児童委員
5	柳井 一二	FNW推進協議会	相談役	福祉協力員
6	木村 國子	FNW推進協議会	ブロック長	福祉協力員・ニーズ対応員
7	南 竜美	第三町内会 まちづくり協議会	会長 副会長	
8	中村 淨志	第三町内会 お助けマン	副会長 責任者	ニーズ対応員
9	松木 裕子	健康づくり推進員	委員長	
10	近藤 哲也	民生委員児童委員 協議会	会長	民生児童委員・保護司
11	河野 広美	民生委員児童委員 協議会	主任児 童委員	
12	小野 晃	北九州ヘルスケア サービス湯川	統括管理者	
13	白川 和朗	市民センター	館長	
14	木場 寿子	小倉南区社会福祉 協議会	職員	地域支援コーディネーター
15	大矢 剛	小倉南区社会福祉 協議会	職員	
16	川口 泉輝	小倉南区役所保健 福祉課地域保健第 二係	職員	

[参考資料1] 策定会議での取り組み経過

回	開催日	人数	主な協議事項
1	令和4年 5月17日(火)	15	第1回策定会議(キックオフ) ・社協会長ご挨拶 ・策定会議策定者自己紹介 ・小地域福祉活動計画づくり導入主旨説明 【参考資料2】策定会議年間開催日程表 【参考資料3】策定者マトリックス表
2	令和4年 6月21日(火)	12	第2回策定会議 ・地域の特色ほか現状把握、課題の洗い出し (A・Bグループワーキング、ディスカッション) 【参考資料4】湯川校区全町丁人口動向 【参考資料5】グループワーキング 【参考資料6】マイルストーン表
3	令和4年 7月27日(木)	8	第3回策定会議 ・課題の洗い出し、課題の整理とグルーピング (模造紙に課題貼り付け→グルーピング) 【参考資料7】湯川校区人口および高齢化の推移
4	令和4年 8月16日(火)	10	第4回策定会議(前回ワークの継続) ・課題の洗い出し、課題の整理とグルーピング 【参考資料8】高齢化が進んでいる地域
5	令和4年 9月20日(火)	12	第5回策定会議 ・目標計画と実施項目の設定 【参考資料9】仮称:湯川校区 絆(きずな)プラン案
6	令和4年 10月18日(火)	13	第6回策定会議(前回ワークの継続) ・目標計画と実施項目の設定
7	令和4年 11月15日(火)	13	第7回策定会議 ・重点実施項目の設定
8	令和4年 12月20日(火)	9	第8回策定会議 ・重点実施項目の決定
9	令和5年 2月21日(火)	15	第9回策定会議 ・第一次計画の纏めと初年度活動への確認 ・概要版の制作・発行 【参考資料1】策定会議での取り組み経過 【参考資料10】校区の名所・旧跡、伝統行事、活動内容

[参考資料2] 策定会議年間開催日程表

令和4年度 湯川校区小地域福祉活動計画づくり策定会議予定表

令和4年5月17日

月	日時	会場	会議室
4	導入準備	—	—
5	17日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
6	21日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
7	19日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
8	16日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
9	20日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
10	18日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
11	15日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
12	20日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室
1	資料まとめ作業		
2	21日(火)10:00~11:00	市民センター	第二会議室

[参考資料3] 策定者マトリックス表

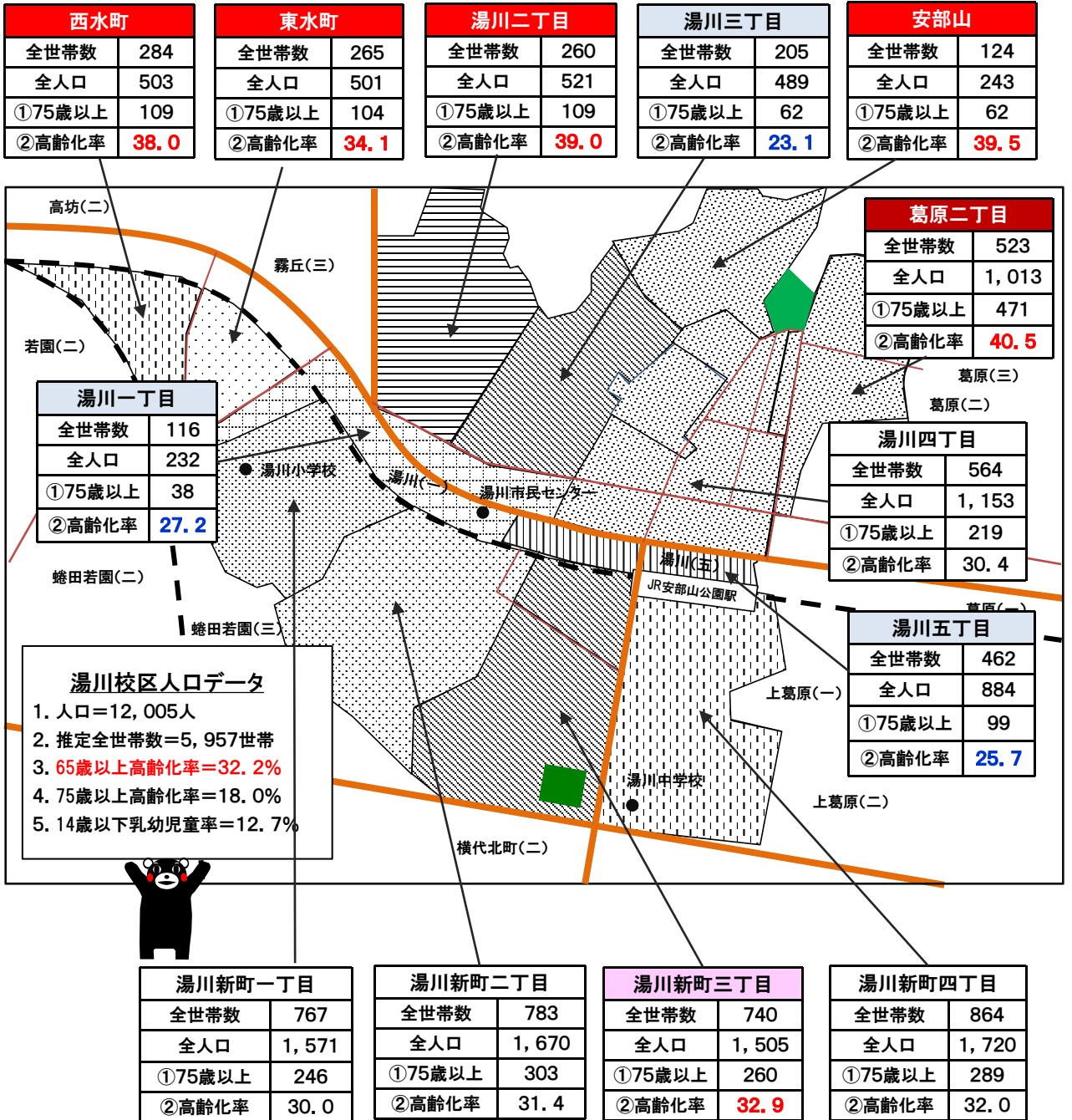
湯川校区小地域福祉活動計画策定者マトリックス表

小地域福祉活動計画策定実施要件 ・準備期間＝令和4年度(1年間) ・活動助成金＝5万円(市社協) ・第一次計画(令和5年～令和9年) ・策定時間＝毎月1時間 ・開催場所＝湯川市民センター ・事業団体＝湯川校区社会福祉協議会 ふれあいNW活動推進事業 ・幹事団体＝ふれあいNW推進協議会 ・計画策定者＝表記機関団体				【関連図】◎関係団体代表 ○役員または委員 □SV												
				まちづくり協議会	自治連合会	社会福祉協議会	自治町内会	ふれあいネットワーク協議会	福祉協力員	ニーズ対応員	民生児童委員協議会	健康づくり実行委員会	市民センター	サービス付き高齢者住宅	北九州市社協小倉南事務所	小倉南区役所
	氏名	所属団体	役職													
1	村内 実	まちづくり協議会 社会福祉協議会	会長	◎	◎	◎	○	○		○	○	○	○	○		
2	山岡信幸	ふれあいNW 推進協議会	会長	○		○	◎	○	○	○		○	○	○		
3	松田真壽美	ふれあいNW 推進協議会	事務局長				○	○	○			○		○		
4	柳井一二	ふれあいNW 推進協議会	相談役				○	○		○				○		
5	永留英子	ふれあいNW 推進協議会	会計				○	○				○		○		
6	木村國子	ふれあいNW 推進協議会	ブロック長				○	○	○							
7	南 竜美	第三町内会	会長	○	○	○	◎	○					○	○		
8	中村浄志	第三町内会	副会長				○	○	◎							
9	松木裕子	健康づくり 推進員の会	委員長	○		○			◎							
10	近藤哲也	民生委員児童 委員協議会	会長	○		○			◎				○	○		
11	河野広美	民生委員児童 委員協議会	主任児童委員						◎		○			○		
12	小野 晃	北九州ヘルスケア サービス湯川	統括 管理者	○		○	○					◎				
13	白川和朗	市民センター	館長	○		○					◎			○		
14	木場寿子	小倉南区社協	コーディネーター			□	□						◎			
15	大矢 剛	小倉南区社協	主事			□	□						◎	○		
16	川口泉輝	地域保健第二係	保健師	□		□	□						◎			

[参考資料4] 湯川校区町丁別人口動向

湯川校区 ①町丁別高齢者人口(75歳以上)および②高齢化率(65歳以上)

データ: 令和4年3月31日時点



[参考資料5] グループワーキング

グループワーキング(A・Bグループ分け)

テーマ：

自分たちが住んでいるまちの特色、特徴を話し合おう！

○ひと口に言って、「湯川ってどんなまち？」

○地理的、俯瞰的に観て

○風土・文化・風習、名所・旧跡・史跡、著名人、建造物など

○地域活動あれこれ

手順

カードワーキング(付箋紙・模造紙)



ブレインストーミング



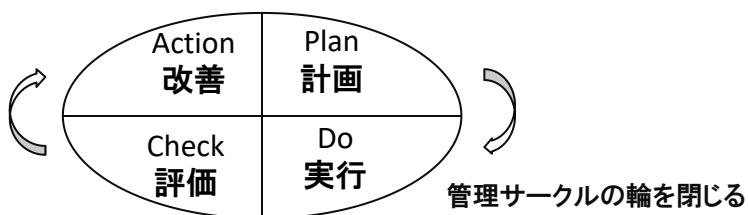
親和図、KJ法



[参考資料6] マイルストーン表

湯川校区「小地域福祉活動計画づくり」マイルストーン

	4/23 土	5/17 火	6/21 火	7/27 木	8/16 火	9/20 火	10/18 火	11/15 火	12/20 火	2/21 火
1. 計画づくり導入	合同総会(まち協・社協)									
2. 策定会議設置	(趣旨説明・会議日程・メンバー構成など)	kick off	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
3. 地域の特徴ほか討議			○カードワーク(A・Bグループ分け BS・KJ法)							
4. 課題抽出・分類化				○カードワーク(BS・KJ法)						
5. 重点実施項目策定					○グループワーク(重点項目抽出)	○				
6. 基本目標設定							○グループワーク(重要度・優先度)			
7. 体系化・役割区分								○グループワーク(タイムスケジュールほか)		
8. 事業活動要綱と整合									○絆プラン作成・マッチング	
9. 第一次計画策定・周知										○Goal 第一次計画策定・周知



[参考資料7] 湯川校区人口および高齢化の推移

私たちが住んでいるまちの特徴(特色)①

～データで科学的に判断する～

湯川校区人口動態の推移

2025年社会保障(制度)への影響大!!

団塊世代(1947年生～1949年生)の高齢化



少子高齢化による下支え課題

湯川校区人口データ(2022年3月)

1. 人口=12,005人
2. 推定全世帯数=5,957世帯
3. 65歳以上高齢化率=32.2%
4. 75歳以上高齢化率=18.0%
5. 14歳以下乳幼児童率=12.7%

湯川校区人口データ(2019年3月)

1. 人口=11,750人
2. 推定全世帯数=5,700世帯
3. 65歳以上高齢化率=31%
4. 75歳以上高齢化率=17%

湯川校区人高齢化率(2014年)

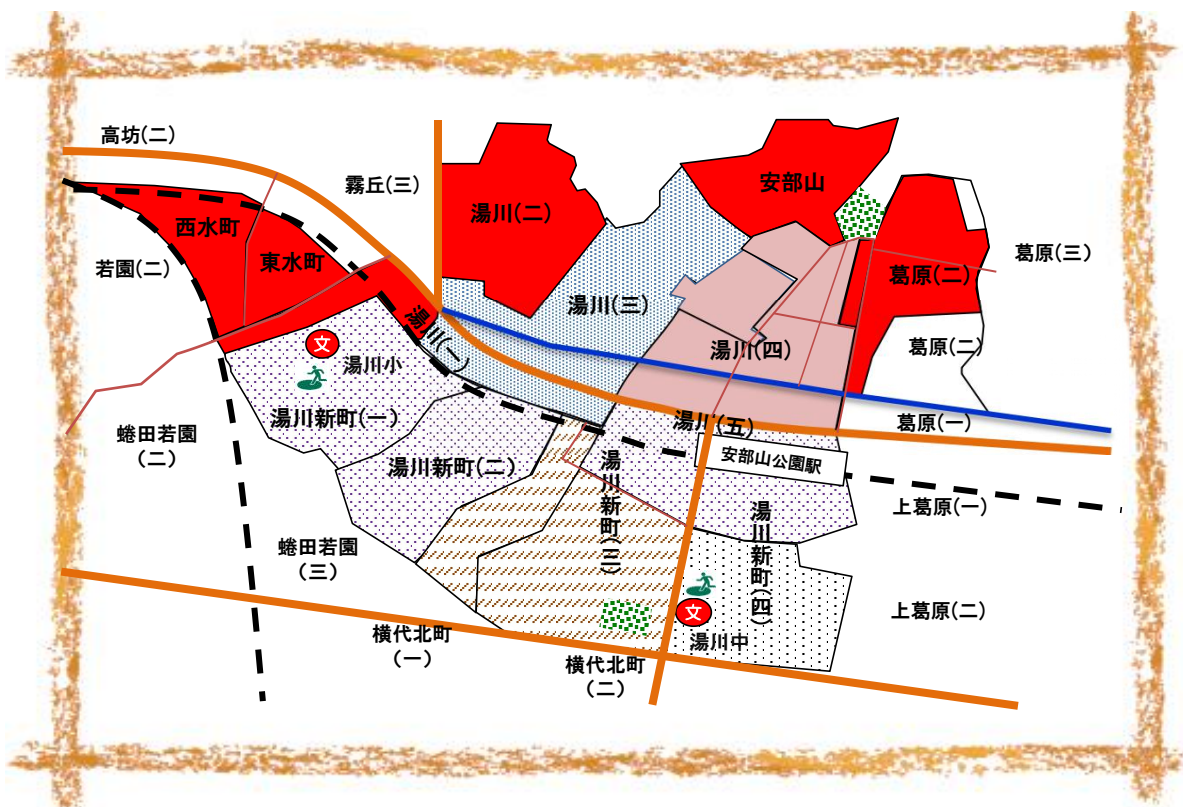
1. 65歳以上高齢化率=29.7%
2. 75歳以上高齢化率=10.4%

[参考資料8] 高齢化が進んでいる地域

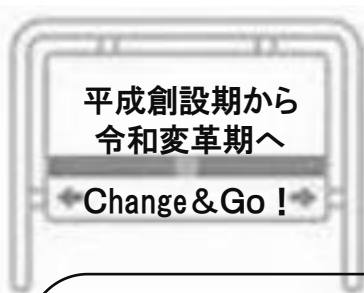
私たちが住んでいるまちの特徴(特色)②

～見える化(ビジュアル化)で俯瞰的に！～

 足立山麓に広がる高齢化地域



湯川校区の絆(きずな)プラン



①ふれあいネットワーク(FNW)活動

話し合い 助け合い見守り



FNW 連絡調整会議



地場病院・老健施設参加の連絡調整会議



策定委員によるグループワーキング

小地域福祉活動計画策定会議



活動拠点 湯川市民センター

②地域共生社会の実現



[参考資料10] 湯川校区の名所・旧跡および活動内容

■名所・旧跡



▼水神社



昔、和氣清麻呂公が足を痛めたとき、宇佐八幡大神のお告げにより入った温泉で足を治したといわれる霊泉があります。

清麻呂公は温泉の湧き出る池を大変喜び、これを褒めたたえて「一生池」と名づけて、そのほとりに水の大元の神をまつりました。

これが水神社の始まりといわれています

▼貴布弥神社



境内には「升塚」と呼ぶ石碑があります。この升塚は市内で確認されている「板碑」の中で年紀の刻んだものでは最古のものであるとされています。

鎌倉時代、この地方には定められた「升」がなく大変困っていたそうです。そこである村人が升を決めてもらおうと鎌倉に上り、3年間幕府に訴え続けましたが、目的を果たさぬまま死んでしまいました。

この事が後刻、上司の耳に達しその不便さと彼の強い意志に動かされ早速「升」を決めさせました。

これを喜んだ村人たちは彼の徳を称え記念の石碑を今日でも「升塚」の名で親しまれています。

▼中津街道



かつて小笠原十五万石の小倉城下と奥平十万石の中津城下を結んだ街道です。現在、昔の中津街道の面影を残しているところは少ないですが、その中で湯川街道(一方通行)と県道湯川赤坂線の五ツ石歩道橋に百mほど残っています。

■活動内容

▼生活安全パトロール



地域の犯罪や事故防止、環境美化について見回りを行い、安心して暮らせるまちづくりを目指し生活安全パトロール隊を組織し町内の定期的な巡視を行っています。

▼清掃活動



地域の環境美化を図るため、各町内の清掃活動の他に道路や河川の定期的な清掃活動を行っています。また、中学校との合同清掃も行いまち美化意識の高揚を図っています。

▼湯川わいわい祭り



福祉・健康・環境・防災の啓蒙啓発を目的に地域住民との交流を通してその意義を深めています。お楽しみ抽選会、健康コーナー、古着のリサイクルバザー、子ども向けに凧づくりやバルーンアート、パンや野菜の販売など盛沢山の祭りです

▼夏まつり in ゆがわ



地域住民や校区団体との交流促進を図り、安全で安心いつまでも住みつづけていたいまちづくりを推進しています。
今では湯川の夏の風物詩として老若男女が大勢参加して楽しんでいます。

▼春・秋のウォーキング



校区健康づくり実行委員会が主体となって健康増進を図るために春と秋の年2回開催しています。
特に、関門トンネル(人道)から唐戸市場へのウォーキングが人気のコースとなっています。

▼湯川の文化祭



毎年11月初旬、菊花薫る時季に湯川市民センターには校区団体・グループ員による力作・大作が展示されて多くの来館者が楽しく鑑賞しています。
オープニングセレモニーの湯川太鼓熱演も必見です。

▼健康福祉セミナー



年3回、地場の病院や介護施設の専門者による講話やストレッチ実技など地域高齢者のフレイル予防や引きこもり防止のため開催しています。
夏季の熱中症や冬季のヒートショックなど季節に応じた講話や老化防止のための軽運動は大変参考になります。

▼日常生活困りごと支援（お助けマン活動）



第三町内では日常生活上の困りごと支援活動として無償のボランティア（お助けマン活動）をニーズ対応員として展開しています。植木の伐採・剪定から除草や雨樋や網戸、風呂釜の修理などを、また時節柄コロナ予防接種申請ほか多岐に亘って地域の方に寄り添った活動をしています。

▼ふれあい・いきいき交流会



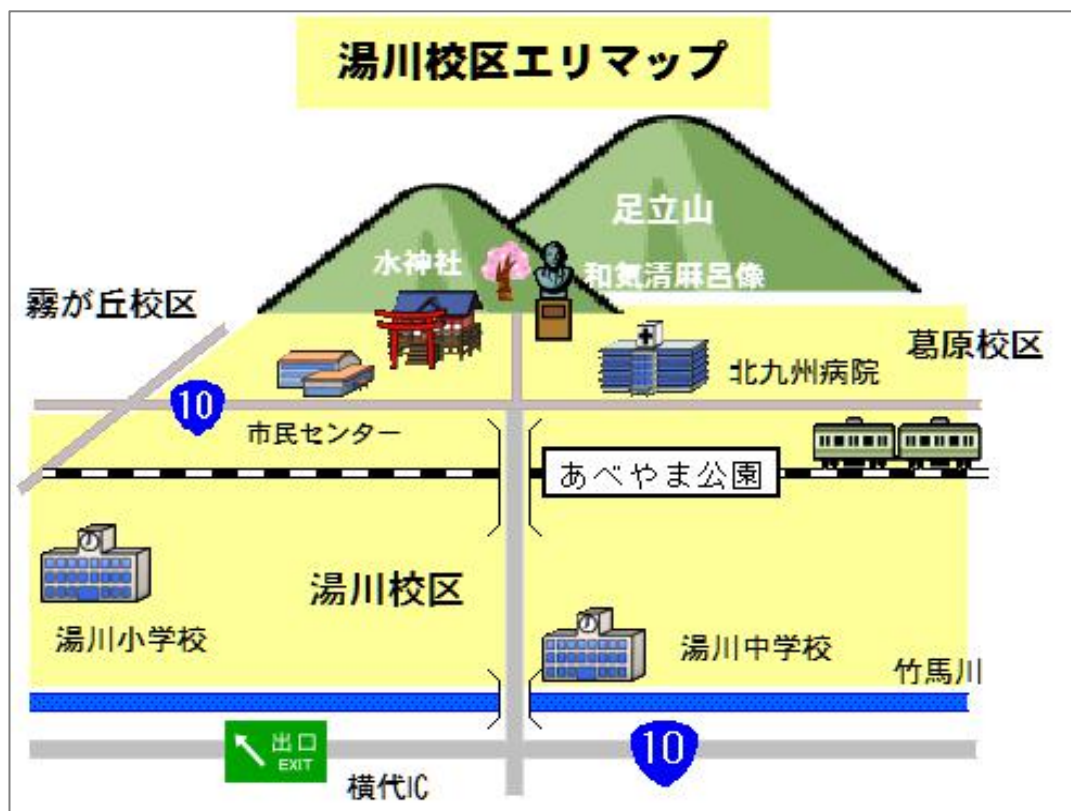
ひとり暮らし高齢者のひきこもりや孤立孤独を回避するため令和4年度より新規事業活動として年3回開催。健康測定（看護師）や健康（健口）運動、脳トレ、手品など創意工夫しながら楽しく推進しています。

▼湯川小 昔あそび・火おこし体験学習交流



児童たちの体験を通して育成・成長を願い地域の方が先生になって昔あそび（1年生）や火おこし（3年生）を毎年実施しています。児童たちとのふれあいは、あっという間に時間が過ぎていきますが元気を頂いています。

地域と人がつながり 支え合うまち 湯川



ふれあいネットワーク



湯川校区社会福祉協議会

〒800-0257

北九州市小倉南区湯川一丁目8番33号

北九州市立湯川市民センター内 TEL(093)941-1751